

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組

## 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～青森県～

本県生徒の実践的コミュニケーション能力を育成するため、本県英語担当教員の英語指導力等の向上を図る。

そのために、①求められる英語力を有する英語担当教員の割合、②求められる英語力を有する生徒の割合、③生徒の授業における英語による言語活動の割合等の向上を図る。(平成25年度末時点①高等学校42% 中学校19% ②高等学校39% 中学校33% ③高等学校42% 中学校46%)

「青森県英語教育改善プラン」を作成し、それに基づいて県内英語担当教員の研修、研修協力校による研究協議会等を行い、教員の指導力等向上を図る。

### 【具体的な取組内容】

#### ① 小学校外国語・外国語活動研修講座

講義や演習を通して、小学校における外国語活動の授業づくり及び英語を楽しく学ばせるための指導の在り方について研修を行い、小学校において外国語活動を推進していくための基礎的な能力を養成した。

#### ② 中学校英語指導法研修講座

小中連携を意識した指導法改善をテーマに、英語指導法とコミュニケーション活動の研修を行い、学習指導要領の趣旨に即した授業の組立について研鑽を積んだ。

#### ③ 高等学校英語科言語活動実践講座

生徒の主体性を育み、生徒の言語活動を増やすことについて、その意義を理解し共有した。また、評価に関する講義と演習を取り入れることで、観点別評価に関する知見を深めた。

#### ④ 研修協力校における研究協議会

(平成26～28年度: 県立田名部高等学校 平成29～30年度: 県立三本木高等学校・同附属中学校)

研修協力校での実践例を発表し、基礎力の定着に向けた中高連携の在り方や具体的手法について協議した。また、公開授業及び合評会を通して、アウトプット活動を重視した授業モデルの構築を目指し、意識を共有することができた。

#### ⑤ 英語コミュニケーション能力向上研修

TOEIC-IP受験に加え、英語力向上に向けての講座と研修協力校による実践発表を組み入れた、中学校及び高等学校教員合同の研修を実施した。「6年間で行う英語教育」及び「教員自身が学び続ける」という視点を共有するうえで大きな意義があった。

#### ⑥ 英語担当教員の指導力等向上研修

県内の英語教育推進リーダーを講師として、コミュニケーション能力を有し、グローバル化に対応した人材の育成を強化するための研修を行った。多くの教員が生徒の言語活動を充実させるためのヒントを得ることができた。※本県では「人材」を「人財」と表記している。

#### ⑦ 中学校・高等学校の英語担当教員の外部検定試験受験料補助

実用英語技能検定試験の受験料を補助し、制度を活用して積極的に受験するよう周知し、英語教員のコミュニケーション能力向上を促した。

#### ⑧ 外国語担当教員の海外研修及び文化交流

海外の大学や研修施設で行われるワークショップを通じて、4技能を総合的に指導するための実践的演習を行い、指導力の向上を図った。また、国外の外国語担当教員等との交流を通して、外国語教育についての知見を広げさせた。

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～青森県～

## 【成果と課題】

| 【高等学校】                            | 平成25年度末 | 平成26年度末 | 平成27年度末 | 平成28年度末 | 平成29年度末 |
|-----------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ①求められる英語力(英検準1級程度以上)を有する英語担当教員の割合 | 42%     | 45%     | 48%     | 57%     | 64%     |
| ②求められる英語力(高等学校3学年は英検準2級～2級程度)     | 39%     | 39%     | 36%     | 38%     | 42%     |
| ③授業における生徒の英語による言語活動の占める割合         | 42%     | 37%     | 31%     | 33%     | 38%     |
| ④授業における英語担当教員の授業における英語使用状況        | —       | 40%     | 28%     | 32%     | 35%     |
| 【中学校】                             | 平成25年度末 | 平成26年度末 | 平成27年度末 | 平成28年度末 | 平成29年度末 |
| ①求められる英語力(英検準1級程度以上)を有する英語担当教員の割合 | 19%     | 19%     | 18%     | 21%     | 23%     |
| ②求められる英語力(中学校3学年は英検3級程度)          | 33%     | 35%     | 36%     | 37%     | 40%     |
| ③授業における生徒の英語による言語活動の占める割合         | 46%     | 46%     | 61%     | 64%     | 63%     |
| ④授業における英語担当教員の授業における英語使用状況        | —       | 39%     | 45%     | 50%     | 53%     |

### 〈成果〉

- ・各種研修及び検定試験受験料補助等の取組により、**高等学校①、中学校③④の数字に明らかな上昇が見られる。**
- ・特に研修協力校においては、**生徒の英語によるコミュニケーションに対する意欲、及び英語によるコミュニケーションの技能において顕著な向上**が見られた。
- ・研修協力校における研究協議会を通して、多くの**教員が多様な言語活動の指導法について情報を共有し、各校における指導実践が徐々に改善**されてきている。
- ・研修協力校においては、**教員が求められる英語教育の在り方について十分理解し、実践するための資質・能力を身につけた。**また、生徒の資質・能力に左右されず、**各校の実態に応じて生徒の英語運用能力を高めるプロセスを構築する能力を身につけた。**

### 〈課題〉

- ・**高等学校②、中学校①の数字がほぼ横ばいである。**
- ・指導に関連した知識、技能の習得に向けて、特に**小学校教員へは継続して英語力・指導力の向上に向けた支援が必要**である。
- ・**学校全体で授業における指導方針に一貫性を持たせる学校・教科目標の達成のため、教員がチームとして指導に対する意思統一を図ることができる**よう、県教育委員会として継続した働きかけが必要である。
- ・各中学校・各高等学校において定期的に研究協議会を実施し、**指導法の研究や指導成果の検証を行う機会を意図的に設けるよう促すなど、授業改善に向けて研修会への自主的な参加や積極的な授業実践の共有とその機会の提供が今後も継続して必要**である。

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～青森県～

## 【成果の波及・周知について】

- ①研修協力校において、中学校教員・高等学校教員を対象とした研究協議会を実施した。
  - ・中高連携の在り方や具体的手法について参加者による情報共有を図った。
  - ・公開授業及び合評会を通し、多様な言語活動の実践例や観点別評価に基づいたパフォーマンステストについての紹介、討議等を行った。
  - ・中高連携推進モデル、アウトプット活動を重視した授業モデルの構築という観点で指導助言から高い評価を得た。
- ②英語コミュニケーション能力向上研修において、研究協力校の教員を講師として指導実践例を用いた講義・演習を行った。
  - ・中高連携及びアウトプット学習の重要性に対する認識が高まった。
- ③英語教育推進リーダーを講師として指導力向上研修を実施した。
  - ・4技能それぞれに関する具体的な指導実践例についてワークショップ形式で受講者が実際に体験し、生徒の実践的コミュニケーション能力の育成の具体的手法について見識を深めた。

## 【課題解決のための手立て】

- ①「青森県英語教育連携推進事業」を実施し、本県小学校教員及び中・高等学校英語担当教員の資質向上を図る。
  - 1 青森県英語教育推進リーダー研究協議会
    - ・英語教育推進リーダーの活用と校種を超えた緊密な連携ネットワークの構築
    - ・英語教育推進リーダーによる先進的な授業実践を公開
  - 2 小学校教員の英語力・指導力向上支援プログラム
    - ・小学校英語教育メンター育成プログラム(平成31年度)
    - ・中核教員・英語専科指導教員研究協議会の開催(平成32年度)
- ②「青森県の将来を担うグローバル人財育成事業」を実施し、県内高校生の英語力向上及びグローバルマインドの育成を図る。
  - 青森英語4技能向上プロジェクト
    - ・外部検定試験を活用した高校生の英語4技能(読む、聞く、書く、話す)のデータ収集・検証
    - ・新学習指導要領及び大学入学者選抜改革に対応した青森県独自の指導・評価モデルの作成と成果物の波及
- ③外部専門機関と連携した研修を実施し、英語担当教員の英語力・指導力向上を図るとともに、外部検定試験を実施する。

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・基礎知識を定着させ、スピーキング能力をさらに高めるための活動
- ・読解力を高め、要約する力をつける活動

## 具体の取組の内容

### 【高校】

○教科書本文の縮約版を利用したレッスンの2度読み

- ・2パート分を1つのパッセージに縮約することで、内容理解とスピーキングを始めとする定着活動に十分な時間を充て、英文の理解を深める。

○各単元の最後でのRetelling + RetellingしたことをWriting

- ・キーワードをヒントに、ペアでRetelling活動を行い、その後その内容を自分の言葉で英語で書く。これにより英語によるアウトプット能力を高める。

### 【中学校】

○授業の導入部でのImpromptu speech

- ・自分の考えをアウトプットする機会を増やすとともに、話し手が一方的に話すのではなく、聞き手も質問をしたり相づちをうったりするなどのやりとりを行う資質を身に付ける。

○各単元の最後でのRetelling + RetellingしたことをWriting

- ・音読や日本語を英語に変換する活動によりインプットした英文をもとに、キーワードや絵をヒントにして話したり書いたりするアウトプット活動を行うサイクルによって、読む技能と話す技能・書く技能を有機的に関連づけ、総合的なコミュニケーション能力を育成する。

## 成果①

### 【高校】

○英語による言語活動が大半を占めるため、英語によるコミュニケーションに自信を持ち、意欲的に授業に取り組んでいる。また、外部検定に意欲的に挑戦している。

(実用英語技能検定 準1級取得者:  
2017年度3名／中3・1名、高2・2名  
2018年度3名／高2・1名、高3・2名  
・第3回は41名が準1級申込済)

○Retellingでは教科書の重要構文の他、既習表現を用いて積極的に伝えようとしている。

○授業形態が統一されているため、生徒の取組状況を教員間で共有し、課題の改善策に繋げやすい。

## 成果②

### 【中学校】

○スピーチ活動を通して、Topicについて自分の経験や考えなどを話すことができる。また、相づち等のリアクションもできるようになってきている。

○Retellingでは、教科書等で学習した表現を駆使し、自分の意見を加えたり、聞き手に質問したりしながら相手に伝えられるようになってきている。ペアをかえて数回行う中で、仲間から学んだ表現を取り入れる等、更に工夫しようという姿勢も見られてきている。

○単元のゴールの活動を明確にしたことで、その活動に生かそうと、そこに至るまでの音読や暗唱、J⇒E等の活動を目的意識をもって行う生徒が増えてきている。

## 今後の課題・方向性

### 【高校】

○本校の目的である「自らの意見を英語で発信」できるように、様々な分野に関する英文に触れ、日頃から自分の考えを英語で伝える言語活動を工夫する。

○教科書本文の縮約版を用いた定期考査の出題内容を充実させる。レッスン全体の英文を用いた出題傾向にあるため、授業に沿った出題内容になるよう検討を進める。

### 【中学校】

○型を示してからではなく、まず生徒に自由に表現させ、そこで出てきた課題に応じて指導したり、生徒が用いたよい表現を全体に広げたりしていくような言語活動を充実させていく。(相手の話を理解した上で、自分が本当に聞きたいことを質問できるよう、実際に多くのやりとりを経験させる中で高める。)

○教科書だけではなく、様々な英文を読み、それをもとに話したり書いたりする活動を充実させていく。